

探究・校務改革 支援補助金 2025

令和6年度補正予算
地域未来人材育成支援民間サービス等利活用促進事業費補助金



探究的な学びの高度化/教職員の校務負担軽減を目指して

効果報告レポート

- 【事業者名】 グローバル×サステナビリティ探究プログラム
幹事:タイガーモブ株式会社
構成社:公益財団法人 地球環境 研究機関
- 【サービス名称】 グローバル×サステナビリティ 探究プログラム (タイガーモブ株式会社)
Sustainability Learning Package (地球環境戦略研究機関:IGES)
(サステナビリティ・ラーニング・パッケージ)
- 【サービスの支援項目】
カテゴリ 1-1 探究的な学びの高度化 メインサービス

2026年1月



1. サービスの概要、特徴

本サービスは、専門家監修の動画教材とオンライン対話を活用し、生徒の探究プロセスを一貫して支援するオンライン型探究支援サービスです。授業設計から評価補助までを含み、教員負担を抑えた実装が可能です。

(1) 導入によるメリット、類似サービスとの差異

本サービスは、環境・社会・経済の持続可能性（サステナビリティ）をテーマに、生徒が社会課題と自らの価値観を結びつけて探究する力を育成する実践型探究支援サービスです。

海外のサステナビリティ実践者とのオンライン対話や、IGES研究員監修の動画教材を活用し、「問い→対話→振り返り→発信」の探究プロセスを一体的に設計します。単発講演や教材提供にとどまらず、探究設計から内省までを一貫して支援できる点が類似サービスとの違いです。

(2) 学習効果・業務効率化等に関する効果

生徒は、社会課題に関する正確な知見をもとに主体的な問いを立て、考察・言語化・発信を行うことで、内省力・表現力の向上が期待されます。

レポートやプレゼン等の成果物により学習成果を可視化できます。また、4から5コマ相当の探究授業設計を一括支援し、教材準備や評価補助にかかる教員の負担を軽減します。100名規模での導入・運用も可能です。

(3) サービスの活用場面

- 総合的な探究の時間 サステナビリティ
- SDGs関連授業
- オンライン／ハイブリッド授業
- 教員の探究設計支援 ※希望に応じて現地体験型プログラムとの接続も可能

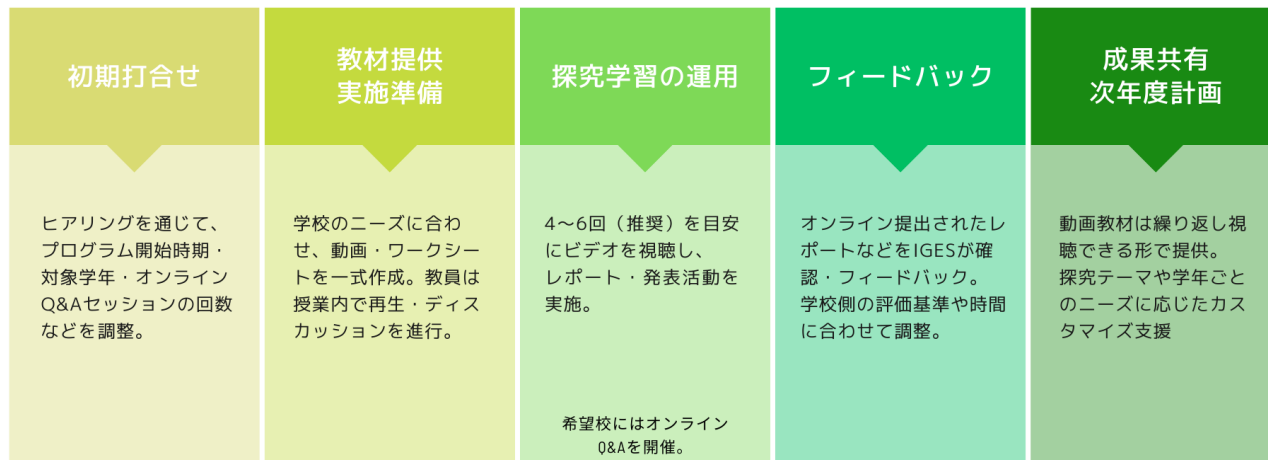
(4) 1サービスあたりの標準販売価格

- 価格帯：1.5万円/人(税込) ※オンライン接続設置等のサポート費は含まれません。

2. サポート内容（サービスの利用に際しての自社のサポート体制等）

導入前：教員との事前調整、探究設計支援 実施中：オンライン
対話の進行補助、教材活用支援 実施後：振り返り・成果物作成
支援、簡易フィードバック

サポート全体像



授業中のサポート



学校現場の課題は、サステナビリティをテーマとした探究学習において、リアルな課題やそれに向き合う人々の声に触れながら、生徒の主体的な問いづくりや深い思考を促すこと、また教員の準備・運営負担を軽減すること。本サービスは、専門性の高い教材と対話設計を通じて、探究の質を高めると同時に、教員の業務効率化を実現した。

児童生徒・教職員が抱える課題

社会課題・サステナビリティを扱う探究学習において、課題設定が表層的になりやすい

生徒が「自分ごと」として考え、言語化・発信する機会が不足 教員側で

- ・専門的な教材の確保が難しい
- ・探究設計・評価が属人化し、準備負担が大きい

大人数での探究授業を安定的に運営する仕組みが不足

サービスが果たす役割

IGES監修の動画教材や海外実践者との対話を通じ、生徒が正確な知見をもとに主体的な問いを立てる機会を提供

「問い→対話→振り返り→発信」の探究プロセスを構造化し、生徒の内省力・表現力を育成

ワークシート、進行ガイド、評価補助により、教員の教材準備・評価負担を軽減

4コマ相当の探究授業を一括支援し、

100名規模でも効率的な運用を可能にする

活用の概要（どのように課題を解決したか）

本事業では、サステナビリティをテーマとした探究学習において、生徒が主体的に問いを立て、深く思考・表現することが難しいという課題に対し、本サービスを活用。専門性の高い動画教材およびオンライン対話を授業に組み込むことで、探究の導入から深化、成果発信までを体系的に支援し、教員の準備・運営負担を軽減しながら学習の質を向上させた。

活用の流れ

導入（課題理解・問いづくり）

IGES研究員監修の動画教材を活用し、気候変動や資源循環などの社会課題をインプット。生徒はワークシートを用いて、自身の関心や価値観と結びつけながら問いを設定。

対話（探究の深化）生徒は事前に用意した問いをもとに対話を行い、実践者の視点や経験から学びを深めた。

振り返り（内省・整理）

対話後、ワークシートを用いて学びを振り返り、自身の考えの変化や新たな問いを整理。教員は進行ガイドを活用し、個別の専門知識に依存せず授業を進行。

発信（成果の可視化）

レポートやプレゼンテーションとして成果をまとめ、発表を実施。提出物への簡易コメントにより、生徒の学びを支援。



学んだことを内省し、整理する様子



ワークシートを活用して教員が進行する様子

本事業においてサービスを導入した学校設置者数・学校等教育機関数

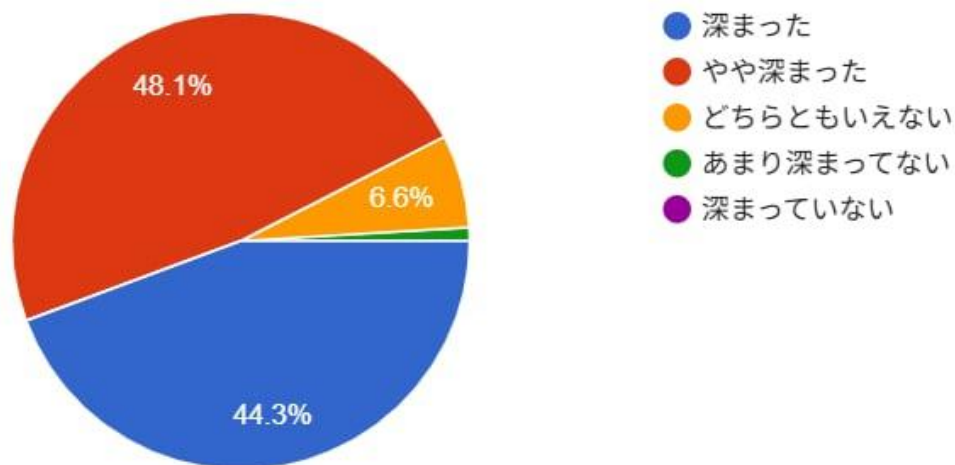
学校設置者数	2	学校等教育機関数	2校
--------	---	----------	----

	学校設置者名	学校等教育機関名	所在地	学校種	学年	実施内容
1	一般社団法人WING SCHOOL	WING SCHOOL	熊本	フリー スクー ル	1,2,3年	理科
2	学校法人玉名学園	専修大学熊本玉名高等学校	熊本	高校	1,2年	総合的な学習(探究)の時間

定量的効果検証

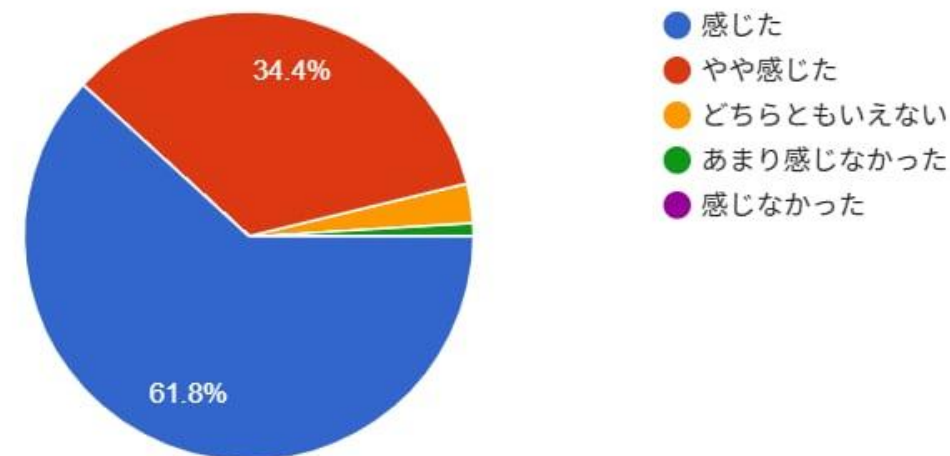
Q1 授業でSDGsや地球温暖化などに関する理解は深まりましたか。

212件の回答



Q2 地球温暖化は、自分の生活と関係があると感じましたか。

212件の回答



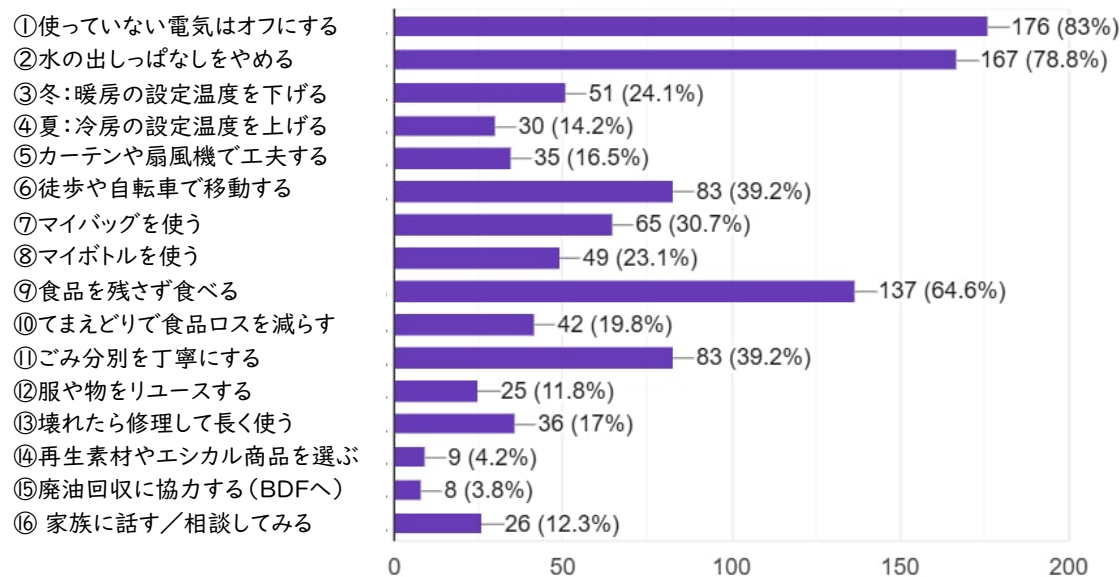
本調査(n=212)から、授業を通じてSDGsや地球温暖化への理解が「深まった/やや深まった」と回答した生徒は計92.4%に達しており、内容理解の向上という点で高い教育効果が確認できる。また、地球温暖化を「自分の生活と関係があると感じた/やや感じた」と回答した生徒も96.2%にのぼり、知識の獲得にとどまらず、個人レベルへの接続まで到達していることが示唆される。

以上より、本授業は単なる情報提供ではなく、課題を「自分ごと化」させる認知変容を促す設計として有効であったと評価できる。理解の深化と当事者意識の醸成が同時に達成されている点が、本プログラムの定量的成果である。

定量的効果検証

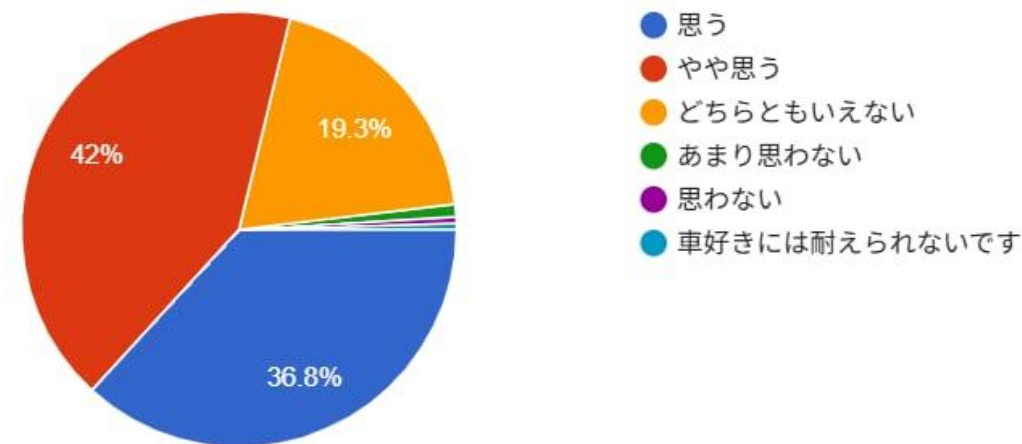
Q3 授業後に、少しでも心がけたもの全てにチェックをつけてみましょう！

212件の回答



Q4 これから先、脱炭素につながる行動をしてみたいと思いますか。

212件の回答



本調査(n=212)では、授業後に「使っていない電気を消す(83%)」「水の出っぱなしをやめる(78.8%)」「食品を残さず食べる(64.6%)」など、日常生活での具体的な行動を意識した生徒が多数を占めた。また、「脱炭素につながる行動をしたいと思う/やや思う」と回答した生徒は計78.8%に達している。以上より、本授業は理解や意識の向上にとどまらず、具体的な行動変容の意欲喚起まで到達していることが示された。環境配慮行動を日常レベルで実践しようとする姿勢が醸成された点が、本プログラムの一つの成果である。

定性的効果検証

1. 「危機感」から「主体性」への意識変容 「2100年の未来予測」や「四季の消失」といった衝撃的なデータに触れつつも、そこで思考停止せず、「だからこそ今、自分が行動しなければならない」という主体的な姿勢へと変化した。
2. 「個人のレベル」から「社会レベル」への視野拡大 自分の行動が社会課題(脱炭素)と直結していることを理解し、「一人の行動では変わらない」という無力感から、「みんなでやれば変わる」という連帯感・自己効力感へのシフトが見られた。
3. キャリア意識との結合 講師の実体験(被災地支援や資格取得)を通じ、環境活動を特別なボランティアとしてではなく、自分の「将来の夢」や「生き方」の一部として捉え直す生徒が多く見られた。
4. 探究設計・評価の属人化と準備負担 教員側で課題となっていた専門的な教材確保の難しさや、探究設計・評価の属人化、事前準備の負担については、本事業で提供した弊社作成の教材・進行ガイドをそのまま授業に活用できたことで、大きく軽減された。教材研究や設計を一から行う必要がなく、教員は授業進行と生徒の対話・内省の支援に注力することが可能となった。



コンソーシアムを組むことによる相乗効果

教育現場への実装力を有する事業者と、サステナビリティ分野の専門的知見を有する研究機関(IGES)が連携
役割分担により、単独実施では困難な探究支援モデルを構築した

〈役割分担〉

- 授業設計(タイガーモブ):
 - 探究設計、授業運営支援、教員サポート 話設計、成果物作成・可視化
- 研究機関(IGES):
 - 専門的知見の提供 教材監修による内容の信頼性担保

〈相乗効果〉

- 探究の質(専門性)と現場導入の実効性を両立
教員が専門知識に依存せず探究授業を実施可能 教材・運営の標準化により再現性の高いモデルを構築

1. 危機感と衝撃

「2100年のニュースを見た時に昆虫食や水がなくなっていくのが、恐ろしいなと思いました」
「四季が夏と冬の二択しかないようになっていっていると感じる」「地球温暖化が進むことによって自分たちが住む地球が悲惨になってしまうことがわかった」
「車好きには耐えられないです、大変だなあとと思いました」

2. 自分事化と決意

「SDGsと日々の生活はあんまり関わってないと思っていたけど、生活するほとんどが直結していた」
「一人の行動では変わらないと思っていたけど、みんなでやれば変わる」「小さな積み重ねが良い方の積み重ねに変わるようにしたい」「脱炭素をして未来の自分を救いたい」

3. 具体的な行動の宣言

「授業を受ける前は電気をつけっぱなしだったけど、終わった後から朝はカーテンを開けて電気をつけないようにした」
「ゴミ拾いを心がけようと思った」「買い物のときマイバッグを持参していきたい」
「将来の夢を叶えるために、まずは身近にできる目標からやろうと思った」

4. 講師(授業)へのポジティブな評価

「明るく話してくれるから聞いてて飽きない」「講師の方の経歴がすごいなと印象に残っています」「クイズやスライドを使って楽しく講話が聞けた」

5. 「もっと知りたい」という要望・疑問

「電気自動車や紙ストローなど、今行われていることにどんな意味があるのか聞きたい」
「食とSDGsについてもっと話を聞きたい」「マイボトルはどうすればよいか知りたい(洗い方や選び方?)」「どこの国が具体的にどんな被害を受けているのか知りたい」「SDGsの他の種類(地球温暖化以外)に関する話も聞きたい」

教員主導による既存教材活用型の授業では、事前準備や専門知識への不安、対話不足が課題となっていた。本事業では、教員負担を最小化したオリジナル教材と授業設計を導入し、大規模環境下でも対話を促進する探究型授業を実現した。

直面した課題

当初は既存の動画教材等を用いた教員主導の授業を想定していたが、現場の教員からは「多忙で事前の教材研究や準備をする時間がない」「専門外のSDGsについて生徒の質問に答える自信がない」という声が挙がった。また、体育館という環境上、一斉講義形式になりがちで対話が不足する懸念があった。

解決するための改善策

① オリジナル教材によるモデル授業の実施 教員の負担をゼロにするため、独自に作成した「音声入り視聴覚教材」を持ち込み、講師として全授業を行った。先生方は予習なしで生徒と共に参加(OJT)することが可能となり、負担をかけずに最新データを用いた探究学習を導入することができた。② 授業進行の工夫 動画の合間に「近くの人と1分間感想を言い合う(バズセッション)」時間を頻繁に設け、体育館でも活発な意見交換ができるようファシリテーションを工夫した。

社名	タイガーモブ株式会社
代表	片桐恵理子
設立年月	2016年4月
本社	〒150-0047 東京都渋谷区神山町5-20 ZINE YOYOGI-KOEN 1B
資本金等	100万円
売上高等	3.1億円
従業員数	27人
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン/オフラインでの海外研修、インターン等の実践・探究の提供 ・100年先の未来を創る生態系“タイモブコミュニティ”の運営 ・教育機関向けカリキュラム・授業の企画、実施、コンサルティング ・法人向け研修の企画、実施、コンサルティング ・グローバル人材採用支援

■お問い合わせ窓口

担当:丸山耕平

電話:080-7820-6266

Mail:kohei.maruyama@tigermov.com

社名	公益財団法人 地球環境戦略研究機関
代表	武内和彦
設立年月	1998年4月
本社	〒240-0115 神奈川県三浦郡葉山町上山口2108-11
資本金等	0円
売上高等	18.7億円
従業員数	213人
事業内容	持続可能な開発を目的に、環境・サステナビリティ分野の政策研究とその社会実装を行う公益財団法人

■お問い合わせ窓口

社名:公益財団法人 地球環境戦略研究機関

担当:市原純

電話:070-4380-7916

Mail:ichihara@iges.or.jp